

平成28年度「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」事業概要(男鹿市)

1 市の概要(人口 29,435人)※平成28年4月1日現在

| 就学前教育・保育施設数、小学校数(平成28年4月1日現在) | | | | | | |
|-------------------------------|-------------------|-----------------|-----|-------------------|-----------------|-----|
| 幼稚園 | うち、幼稚園型 認定こども園 | 幼保連携型 認定こども園 | 保育所 | うち、保育所型 認定こども園 | 地方裁量型 認定こども園 | 小学校 |
| 2園 | 0園 | 0園 | 7か所 | 1園 | 0園 | 6校 |

2 教育・保育の現状と課題

| 市の教育・保育の課題 |
|---|
| <p>(1) 小規模な施設が多く、少ない人材で保育や園運営を行うため、研修時間の確保や園外研修への機会が少ないこと。</p> <p>(2) 市内の就学前施設において同じ研修が行われていないため、施設間での保育の専門性に格差があること。</p> |

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

| 目的(3年間) | |
|--|--|
| 教育・保育アドバイザーを配置し、市内の就学前施設への巡回指導及び助言を行うことにより、保育の質の向上を図る。 | |
| 教育・保育の専門家を活用した研修会等の実施により、保育者の専門性の向上を図る。 | |
| 主な内容(3年間) | |
| (1) 教育・保育アドバイザーの配置 | 市に教育・保育アドバイザーを配置し、各就学前施設の課題の掘り起こしを行い、県の教育・保育アドバイザーと連携しながら、解決に向けた方策を探る。 |
| (2) モデル園を核とした研究の推進 | モデル園である船川保育園(保育所型認定こども園)を核とし、保育実践力向上研修会の開催や質の高い教育・保育、小学校教育との接続等についての研究を推進する。 |
| (3) 園のニーズに応じた研修会の実施 | 各就学前施設の実態に応じた柔軟な訪問指導や、効果的な研修等の実施により、保育者の主体性確保を目指すほか、中核となる保育者の育成を行う。 |
| (4) 幼小連携に関する検討 | 小学校と各就学前施設の連携に係る調整、接続に関する研修会の実施による理解促進及び指導計画の作成等の支援を行う。 |
| (5) 取組の普及(成果の発信) | 公開保育研究会の実施やフォーラム等での発信を図る。 |
| 年度別重点 | |
| 平成28年度 | 教育・保育アドバイザーを配置し、各就学前施設の巡回により課題を抽出することで助言指導を行うほか、研修によるスキルアップを図る。 |
| 平成29年度 | 研修機会の提供により、各施設間での保育の専門性における格差の縮小を図るほか、中核となる保育者の育成を行う。 |
| 平成30年度 | 幼小連携に向けた支援体制の整備や接続期の教育内容について研究を推進するほか、公開保育研究会での成果の発信を行う。 |

4 平成28年度の具体

| 目的 | | | | |
|---|------------------|---|-------------------|---|
| 教育・保育アドバイザーを配置し、市内の就学前施設の課題に応じて柔軟に対応できる幼児教育の推進体制の構築を図る。 | | | | |
| 実施内容 | | | | |
| <p>(1) 教育・保育アドバイザーの配置 教育・保育アドバイザーを2名配置し、市内の就学前施設を巡回することにより課題を抽出し、県の教育・保育アドバイザーと連携しながら、指導助言を得て解決に向けた方策を探る。</p> <p>(2) モデル園を核とした研究の推進 教育・保育アドバイザーによるモデル園での研修方法の調整等のほか、外部の専門家を活用した保育実践力向上研修会を開催する。 7 / 8 (金) 保育実践力向上研修会① (男鹿市公開保育研究会) 会場：船川保育園 「子どもたちの遊びの充実を目指して」</p> <p>(3) 園のニーズに応じた研修会の実施 教育・保育の専門家を活用した教育・保育の質に関する研修会や体力づくりに関する研修会など、園のニーズに対応した研修会等を実施し、保育者に対して研修機会の提供を行うことにより、施設間での保育の専門性における格差を縮小させる。 10 / 1 (土) 保育実践力向上研修会② 会場：男鹿市民ふれあいプラザ 「乳幼児の内面理解と保育者の関わり」 (仮) 秋田大学教育文化学部 教授 奥山順子 氏 10 / 23 (日) 保育実践力向上研修会③ 会場：男鹿市民ふれあいプラザ 「子どもの足部の発達と支援の在り方」 (仮) 東京医療保健大学 教授 山下和彦 氏</p> <p>(4) 成果の発信・取組の普及 男鹿市公開保育研究会 (7 / 8 船川保育園)</p> | | | | |
| 検証・評価計画 | | | | |
| | 内容 | 目標となる指標 | 時期 | 評価方法 |
| 1 | 教育・保育アドバイザーの配置 | <ul style="list-style-type: none"> 市内の就学前施設に対し、教育・保育アドバイザーの役割を周知するとともに、園が主体的に活用できる体制を整備する。 教育・保育アドバイザーが市内の就学前施設を訪問し、園のニーズに対応した指導・助言をする。 | 3月まで 12月まで | 訪問実績 訪問記録 保育士及び園長等への聞き取り 園長等への聞き取り |
| 2 | モデル園での保育実践力向上研修会 | <ul style="list-style-type: none"> 参加した保育者の今後の保育実践に役立つ内容にする。 | 7月 | 研修会後のアンケート |
| 3 | 園のニーズに応じた研修会 | <ul style="list-style-type: none"> 参加した保育者の今後の保育実践に役立つ内容にする。 | 10月 | 研修会後のアンケート |

3 平成28年度の実施状況

(1)教育・保育アドバイザーの配置

| ◇教育・保育アドバイザーの施設等訪問状況(平成28年8月～平成29年3月) | | | | | | |
|---------------------------------------|--|-------------------|-----------------|------|-------------------|-----|
| | 幼稚園 | うち、幼稚園型 認定こども園 | 幼保連携型 認定こども園 | 保育所 | うち、保育所型 認定こども園 | 小学校 |
| 施設・校数 | 2園 | 0園 | 0園 | 7か所 | 1園 | 6校 |
| 訪問施設・校数 | 2園 | 0園 | 0園 | 7か所 | 1園 | 0校 |
| 訪問回数 | 21回 | 0回 | 0回 | 70回 | 10回 | 0回 |
| 月平均訪問回数 | 2.6回 | 0回 | 0回 | 8.8回 | 1.3回 | 0回 |
| 目的 | 教育・保育アドバイザーを配置し、市内の就学前施設の課題に応じて柔軟に対応できる幼児教育の推進体制の構築を図る。 | | | | | |
| 実施状況 | <ul style="list-style-type: none"> 平成28年8月22日より教育・保育アドバイザーを1名配置し、市内の就学前施設を巡回し地域の特性や各施設の状況を理解することを主として訪問を行っている。その中で課題を見つけるとともに、保育者との対話等により共通理解を深めるなど、各施設での指導助言を行っている。 また、課題解決に向けての疑問が生じたとき等には、県のアドバイザーに相談し助言を仰ぎながら対応している。 就学前施設からは、児童の言葉づかいや給食の食べ方、室内環境等についての課題に対する助言等が求められ、アドバイザーが実際の状況を確認し対応を行ったほか、県のアドバイザーに相談し内容について助言をいただき施設に対して情報提供を行う等の活動を行っている。 また、保育者から保育内容について個別に相談を受ける等、密接なつながりができつつある。 就学前施設では、アドバイザーの助言等に対して、有意義な内容で非常に助かっているとの話があるほか、日々の保育もあり直接話しを伺う保育者が限られているので、後日施設内で全員に内容を伝えて共有している等、助言等について大変保育者の勉強になっている。 また、児童への接し方等についても保育者目線での助言があり、教えてもらって良かったとの評価を得ている。 最初から指導助言というスタンスではなく、各施設の特色や状況を把握し、園の中に入り込むことを主として訪問を行っている。その中で課題や相談等を受け、自身の経験や県のアドバイザーからの助言等により課題解決に向けた取組を行えている。 | | | | | |



園内研修の様子

(2)モデル園を核とした研究の推進

| | | |
|-------------|--|-----------------------------|
| 目的 | 教育・保育アドバイザーによるモデル園での研修方法の調整等のほか、外部の専門家を活用した保育実践力向上研修会を開催する。 | |
| 実施状況 | <ul style="list-style-type: none"> 男鹿市公開保育研究会（保育実践力向上研修会①） 園内研究テーマ「子どもたちの遊びの充実を目指して」～家庭との連携を図りながら～ 開催日：7月8日（金） 会場：認定こども園船川保育園 参加者：市内の就学前施設の保育者21名、 小学校教諭1名、行政2名 計24名 内容： 9：30～11：20 保育参観 13：00～15：00 グループ協議・全体会 | <p>公開研究会の様子 (船川保育園)</p> |

| | |
|--|---|
| | <p>《アンケート調査結果》 回収率64%</p> <p>回収したほとんどのの方が満足と回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他園の保育の様子を見る機会を得て、参考になることが多く自園に持ち帰り保育に役立っていた。 ・環境構成などで参考になる部分が多く、刺激になる部分がたくさんあった。 ・助言者の先生方からの話しに、普段気付かないことや足りないこと等を改めて感じた。 |
|--|---|

(3)園のニーズに応じた研修会の実施

| | |
|-------------|--|
| 目的 | <p>教育・保育の専門家を活用した教育・保育の質に関する研修会や体力づくりに関する研修会など、園のニーズに対応した研修会等を実施し、保育者に対して研修機会の提供を行うことにより、施設間での保育の専門性における格差を減少させる。</p> |
| 実施状況 | <p>1. 講演会（保育実践力向上研修会②）</p> <p>講師：秋田大学教育文化学部 教授 奥山順子 氏</p> <p>演題： 保育者にとって子どもを理解することとは －内面を育てることと保育の目標－</p> <p>開催日：10月1日（土）</p> <p>会場：男鹿市民ふれあいプラザ（ハートピア）</p> <p>参加者：市内の就学前施設の保育者74名、小学校教諭1名、行政関係者4名 計79名</p> <p>内容：10:05～11:40 講演 11:40～12:00 質疑応答</p> <p>《アンケート調査結果》 回収率84%（回収したほとんどのの方が満足と回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの内面を育てるために、子どもの見ている世界を保育士がしっかり読み取らなければいけないと感じた。 ・子どもの主体性を大事にしたいと思っているのに、自分にとって都合の良い保育になっていたこと等、改めて感じる部分と反省する部分が認識できた。 ・約束や決まりごと等を知らせていくことが社会性につながると捉えて実践していたが、子どもの立場から考えるとそんなに単純ではないということ振り返ることができた。 ・「子どもの育ちを支える」ことの意味を、今一度考え、自分の保育を見直していきたい。 <p>2. 講演会（保育実践力向上研修会③）</p> <p>講師：東京医療保健大学 教授 山下和彦 氏</p> <p>演題：「子どもの足部の発達と支援の在り方」</p> <p>開催日：10月23日（日）</p> <p>会場：男鹿市民ふれあいプラザ（ハートピア）</p> <p>参加者：市内の就学前施設の保育者51名、行政関係者3名 計54名</p> |



奥山順子氏による講演会の様子



山下和彦氏による講演会の様子

| |
|--|
| <p>内 容：10：05～11：30 講演 11：30～12：00 質疑応答</p> <p>《アンケート調査結果》 回収率96%（回収したほとんどの方が満足・やや満足と回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の足部の発達と支援に対しての大切さがわかった。 ・足指の形だけではなく、爪の異常も多いということで子どもたちの足、指、爪も気を付けて見ていきたいと感じた。 ・幼児期に土台を作ることが大切で、爪の切り方などが参考になった。 ・子どもの足部を見ることでいろいろなことが分かり、遊びを工夫するなど、保育の中で意識をして取組みたい。 ・足部の発達だけではなく、すべての感覚が発達につながることを改めて認識できた。 |
|--|

(4)成果の発信・取組の普及

| | |
|----|--|
| 目的 | 公開保育研究会やフォーラム等での取組の普及や発信を図る。 |
| 実施 | ・男鹿市公開保育研究会を認定こども園船川保育園で実施。 7月8日（金） |

4 事業の成果及び今後の課題、改善の方策

(1)教育・保育アドバイザーの配置

| | |
|----|---|
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・各就学前施設に対し最低月1回以上の訪問を行い、教育・保育アドバイザーの役割を周知するとともに、園からの要望による訪問も増えている。 ・指導助言については、自身の経験に基づき話し合いができていたほか、県の教育・保育アドバイザー等と連携しながら対応することができた。 ・各就学前施設の特徴や状況の把握ができ、いろいろな課題があることが分かった。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・当初2名のアドバイザーを配置し事業を行うこととしていたが、人選等の関係もあり1名の配置しかできていない。 ・就学前施設等への助言指導については、施設全体や園長、個人等問題が個々に異なるケースが多く判断に迷うこともある。 |
| 改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・新年度に向けて教育・保育アドバイザーを2名配置する。 ・判断で迷うような場合は、県の教育・保育アドバイザー等を活用するほか、課内で検討の場を設ける等、アドバイザー一人の認識ではなく全体で取り組むようにする。 |

(2)モデル園を核とした研究の推進

| | |
|----|---|
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・今まで行うことがなかったため、公開保育の実施により環境整備や子どもとの関わり方等、普段見ることができない他園の状況を確認することができ、保育者にとって大変有意義なものとなった。 ・グループ協議においても、お互いの状況や今回の保育状況等の意見交換、県から助言をいただき、改めて考えさせられる機会となった。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の開始と同時に公開保育を行ったため、準備期間が少なく日程的に厳しかった。 ・市教育委員会との連携不足等もあり、開催の周知はできたものの、小学校教諭の参加がほとんどなかった。 |
| 改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前にモデル園と具体的な日程調整及び公開の範囲等について打ち合わせを行う。 ・市教育委員会と連携を密にし、市内の小学校への事前周知のほか参加の依頼を行う。 |

(3)園のニーズに応じた研修会の実施

| | |
|----|---|
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに対しての捉え方や関わり方、接し方を振返る等、自らの保育を見直す機会となったほか、保育の基本的な部分の再確認ができた。 ・他園の取組状況を確認することができたほか、足部の発達や支援方法等、子どもたちの足部のケアがいかに大切かがわかった。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・他行事等の都合のため、同月で2回の講演会となってしまった。 ・今年度は、保育者からのニーズ等を把握する機会がなく一方的な講演会となってしまった。 |
| 改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・園の行事等に配慮した日程調整をするほか、保育者が参加しやすい日時を設定する。 ・講演会開催時のアンケート及び園長等からの聴取により、ニーズに対応した講演会を行う。 |

(4)成果の発信・取組の普及

| | |
|----|--|
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・市内の各施設の保育者に向けて公開保育を行った。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・市教育委員会との連携不足等により、市内小学校への取組の普及ができていない。 |
| 改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・市教育委員会と連携を密にし、市内の小学校への取組の普及を行う。 |